

小峰城跡



南湖公園



白河関跡



国史跡

こみねじょうあと  
小峰城跡



MEMO  
おとめ桜

本丸の石垣を積む際、人柱とされた娘の霊を慰めるために、一本の桜の樹を植えたと伝えられており、三重櫓の隣には小さな石碑が建っています。

小峰城の歴史

小峰城は、結城親朝が14世紀中頃、小峰ヶ岡に城を構えたのが始まりと言われ、白河地域が会津領であった頃(江戸時代初め)には、梯郭式(階段状の郭配置)の平山城となっていたようです。寛永4年(1627)に初代白河藩主となった丹羽長重は、寛永6年から約4年の歳月をかけて、小峰城を「奥州の押え」にふさわしい、石垣を多用した近世城郭に大改修しました。この改修にあわせて整備された城下町は、現在の白河市街地の基礎となっています。

慶応4年(1868)正月に起きた戊辰戦争は白河にも及び、新政府軍と奥羽越列藩同盟軍が約3ヶ月にわたり戦いました。そのため、小峰城内の建物や城下町の一部が焼失しました。

また、平成23年(2011)の東日本大震災では、石垣が10カ所にわたり崩落するなど大きな被害を受けましたが、平成31年(2019)春に復旧が完了しました。



白河の領主変遷

- ◆結城家の時代 (1189年～1590年) (巴) 結城家
  - ◆会津領の時代 (1590年～1627年)
  - ◆白河藩の時代 (1627年～1866年)
- (直道) 丹羽家  
 (源氏車) 榊原家  
 (立葵) 本多家  
 (九輪) 松平(奥平)家  
 (五三桐) 松平(結城)家  
 (梅針) 松平(久松)家  
 (遠藤羽) 阿部家

三重櫓



「白河城御櫓絵図」より三重御櫓建絵図

三重櫓は、本丸の北東隅に建つ三層三階の櫓で、小峰城のシンボルとなっています。平成3年(1991)、県の重要文化財である「白河城御櫓絵図」や発掘調査の成果をもとに、木造で復元されました。

前御門



前御門

本丸の正門として、裏門にあたる桜之門とともに本丸の守りを固めていた門です。門の構造は石垣の上に櫓をわたした「櫓門」の形式で、平櫓の多門櫓と連続していました。平成6年(1994)、木造で復元されました。

今に残る戊辰戦争の弾痕



鉄砲の鉛玉

白河における戊辰戦争当時の激戦地であった松並稲荷山の杉の大木(樹齢約400年)を復元用材として利用した際、いくつかの鉄砲の鉛玉や弾傷が発見されましたがそのまま加工され、現在柱や床板、腰板などにその痕跡を見ることができます。

小峰城歴史館



小峰城歴史館

小峰城の歴史や歴代の城主について知ることができるガイダンス施設です。三面VRシアターで江戸時代の小峰城を体験できるほか、歴代藩主に関する貴重な美術工芸品や古文書を展示しています。また、平成31年春まで行われた石垣修復工事の様子をパネルやVTRなどで紹介しています

清水門の復元事業を進めています。

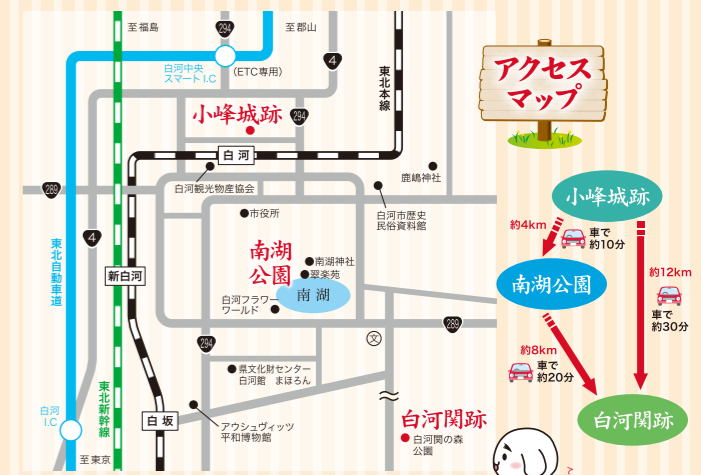
小峰城本丸と二之丸をつなぐ重要な門である清水門を、三重櫓・前御門に続き、絵図や発掘調査をもとに木造で復元する事業がはじまりました。皆様のあたたかいご支援をお待ちしております。詳細は白河市文化財課にお問い合わせ下さい。[文化財課 ☎0248-27-2310]



三重櫓跡より出土した「家紋入り瓦」



清水門復元イメージ



- 交通のご案内(白河市へのアクセス)
- 東北新幹線(新白河駅まで)
    - 東京…新白河1時間15分
    - 仙台…新白河60分
  - 東北自動車道
    - 浦和I.C…白河中央スマートI.C 1時間44分
    - 仙台南I.C…白河中央スマートI.C 1時間36分
    - 福島空港…白河市街車で30分

三重櫓・前御門の復元にあたって

三重櫓・前御門を復元するにあたり行われた発掘調査では、焼土や炭化した木材、建物に使用された瓦などが大量に出土し、戊辰戦争時に焼失したとされる記録を裏づける状況を確認しました。また、建物の礎石も確認され、「白河城御櫓絵図」との比較検討が復元時の柱間や寸法の根拠となりました。

白河市産業部観光課  
 〒961-8602 福島県白河市八幡小路7番地1  
 Tel.0248-22-1111 Fax.0248-23-1255  
 ☒kanko@city.shirakawa.fukushima.jp

公益財団法人 白河観光物産協会  
 〒961-0074 福島県白河市郭内1番地2  
 Tel.0248-22-1147 Fax.0248-22-0117  
 ☒shirakawakankou@shirakawa-22-1147.jp  
 [URL] http://shirakawa315.com





MEMO  
複合的機能を持つ園地

築造自体が天明の飢饉後も困窮する領民の救済事業となり、また、ため池として周辺の田を潤す機能や、藩士の水練・操船訓練の目的もありました。

## 南湖公園の歴史

南湖は、名君であり茶人また優れた作庭家であった白河藩主、松平定信(隠居後は楽翁と称す)により、享和元年(1801)に築造されました。「南湖」の名は李白の詩句「南湖秋水夜無煙」から、また「小峰城」の南に位置していたことから名付けられたといわれています。

定信は身分の差を越え、武士も庶民も楽しむ「士民共楽」という理念のもと築造しました。

築造から200年余の時を経た南湖公園は、桜、松、楓など四季折々に優雅な風趣をたたえ、花と緑と水の園として市民をはじめ多くの人々を魅了し続けています。



《名君・松平定信》  
写真提供：福島県立博物館

## 共楽亭

定信によって、南湖で眺めの良い場所に建てられた茶室。「士民共楽」の理念によるものです。



## 翠楽苑

池泉回遊式日本庭園。苑内には書院造りの「松楽亭」や「秋水庵」などがあり、呈茶のほか結納や各種会合、茶道・句会・歌会などに利用できます。



9月に開催される「十五夜月見会」や「紅葉ライトアップ」では、幻想的な雰囲気の中で呈茶(抹茶と生菓子)や散策が楽しめます。

## 松風亭 蘿月庵

白河藩士三輪権右衛門が作り、定信も好んだとされる茅葺の茶室。「蘿月」は「ツタの葉の間から見える月」の意味です。現在は南湖神社境内に移築されています。



## 南湖神社

大正11年(1922)、日本資本主義の父と呼ばれる渋沢栄一の援助のもとに設立。祭神は松平定信。境内には定信ゆかりの「松風亭蘿月庵」があります。



### 南湖公園案内図



## 南湖十七景

定信は大名庭園に造られる「名所」の手法で、南湖に17の景勝地を定め、これらの名所に和名・漢名の2つを付けました。これらの名を題名にして、親しい大名・公家・儒学者に和歌や漢詩を依頼し、寄せられた自筆を仙台石に刻んで文政3年(1820)に建てたのが「南湖十七景詩歌碑」(現在共楽亭の西側に所在)です。定信自身も「共楽亭」と「鏡の山」の和歌を詠んでいます。是非、湖畔を散策し十七景を楽しんでみてはいかがでしょうか？



MEMO  
從二位の杉

鎌倉初期の歌人で、「新古今和歌集」の選者の一人である藤原家隆(從二位宮内卿)が、手植えし奉納したと伝えられる杉の巨木です。樹齢は約800年と推定されます。

## 歌ごころを誘う関跡

奥州三古関のひとつに数えられる白河関は、奈良時代から平安時代頃に機能していた国境の関で、人・物資の往来を取り締まる「検問所」としての機能を果たしていたと考えられています。

その後、律令国家の衰退とともに官関の機能を失いましたが、「歌枕」(和歌の名所)として文学の世界で都人のあこがれの地となり、能因や西行、松尾芭蕉など時代を代表する歌人・俳人たちが多くの歌を残しており、現在も風流人の想いを描く地として愛されています。



## 古関蹟碑

白河藩主松平定信が、寛政12年(1800)に、この場所を白河関跡と定め、建立した碑です。



## 古歌碑

平兼盛、能因法師、梶原景季が白河関を詠んだ歌三首を刻んだ歌碑です。



秋風に草木の露をはらわして  
君が越ゆれば関守もなし 梶原景季

都をば霞とともに立ちしかど  
秋風ぞふく白河の関 能因法師

便りあらばいかで都へ告げやらむ  
今日白河の関は越えぬと 平兼盛

## 奥の細道

「奥の細道」には「心許なき日かず重るまゝに、白川の関にかゝりて旅心定めぬ」と記されています。関の森公園内に建つ、いにしえを見つめる芭蕉、曾良の像の下部には二人の句が刻まれています。



## 白河関の森公園

関跡周辺は「白河関の森公園」として整備され、四季折々の花や木々を楽しむことができます。

研修や会合などに利用できる交流センターをはじめ、白河地方の直家造りの茅葺き民家をそのまま移築した「ふるさとの家」を見ることができます。またピクニックやレクリエーションに最適な芝生広場や遊具があり、ご家族そろって楽しめます。

白河市旗宿白河内7-2  
☎0248-32-2921



### 白河関跡・白河関の森公園案内図

